



# Cisco Unified MeetingPlace Express システムの一般的なトラブルシュー ティングのヒント

---

この章には、次のトラブルシューティングに関するトピックがあります。

- [ディスク ドライブのスワップアウト \(P.5-2\)](#)
- [ファイルの場所 \(P.5-3\)](#)
- [ライセンス エラーの問題のトラブルシューティング \(P.5-4\)](#)
- [過剰な数の電子メールがランダムに送信される問題のトラブルシューティング \(P.5-4\)](#)

この章を確認した後も Cisco Unified MeetingPlace Express に関する問題が解決しない場合は、Cisco TAC にお問い合わせください。Cisco TAC へのお問い合わせについては、[P.xiii](#) の「[テクニカル サポート](#)」を参照してください。

## ディスクドライブのスワップアウト

ここでは、使用している Cisco MCS サーバでハードディスクドライブをスワップアウトする方法について説明します。Cisco MCS サーバには、それぞれ複数のハードディスクドライブがあるため、1つのハードディスクドライブに障害が発生しても、Cisco Unified MeetingPlace Express システムを継続して使用することができます。ただし、冗長性はないため、システムがダウンした場合は、オペレーティングシステム、アプリケーション、データが失われる可能性があります。

### 作業を開始する前に

- 
- ステップ 1** Cisco MCS サーバのモデル番号を確認します。
  - ステップ 2** Cisco MCS サーバのどのハードディスクドライブに障害があったかを確認します。
  - ステップ 3** 交換用ハードディスクドライブを発注します。交換用ハードディスクドライブは、交換されるものと同じモデルである必要があります。
- 

## Cisco MCS 7825 でのディスクドライブのスワップアウト

Cisco MCS 7825 のすべてのバージョンには、フロントアクセス方式のシンプルスワップ Serial Advanced Technology Attachment (SATA) ハードディスクドライブが付属しています。SATA ハードディスクドライブには、サーバの前面ベゼルの開口部からアクセスできます。ハードディスクドライブに障害が発生した場合は、サーバのダウンタイムをスケジュールしてサーバの電源を切り、障害のあった SATA ドライブを取り外して、未設定のスペアのハードディスクドライブに交換します (各ドライブには、サーバに接続されたドライブと確実に連動するフロントラッチが装備されています)。

ディスクを交換するには、次の手順を実行します。

### 手順

- 
- ステップ 1** サーバとすべての周辺装置の電源をオフにします。
  - ステップ 2** 電源コードとすべての外部ケーブルの接続を外します。
  - ステップ 3** 障害のあるハードディスクドライブを取り外します。
  - ステップ 4** 新しいハードディスクドライブを挿入します。
  - ステップ 5** 電源コードとすべての外部ケーブルを接続します。
  - ステップ 6** サーバの電源をオンにします。
  - ステップ 7** Cisco Unified MeetingPlace Express のオペレーティングシステムを再インストールしてアプリケーションを元に戻し、バックアップからデータを復元します。
-

## Cisco MCS 7835 または MCS 7845 でのディスク ドライブのスワップアウト

Cisco MCS 7835 および Cisco MCS 7845 のすべてのバージョンは、RAID 1 を使用して設定された、最高 6 つの Small Computer System Interface (SCSI) ホットプラグ ハード ドライブ (または 5 つのホットプラグ ハード ドライブと 1 つのホットプラグ テープ ドライブ) をサポートします。これらはホットスワップ可能な SCSI ドライブであるため、サーバの電源を切らずに変更することができます。

ハードディスク ドライブに障害が発生した場合にディスクを変更するには、次の手順を実行します。

### 手順

**ステップ 1** 障害のあるハードディスク ドライブを取り外します。



(注) システムの電源をオフにする必要はありません。

**ステップ 2** 新しいハードディスク ドライブを挿入します。

新しいディスクは、中断なく自動的に同期されます。

## ファイルの場所

システム管理者は、複数のファイルを使用します。表 5-1 は、いくつかの一般的なファイルの場所を示しています。

表 5-1 ファイルの場所

場所	説明
/lat/bin	ほとんどの実行ファイルを格納
/var/mp	ほとんどの stderr および stdout ファイルを格納
/opt/cisco/meetingplace_express/application/logs	ほとんどのログを格納
/opt/cisco/meetingplace_express/application/versions	インストールされた各バージョンのディレクトリを格納
/opt/cisco/meetingplace_express/uninstaller	アンインストール用スクリプトを格納
/opt/cisco/meetingplace_express/database/db-maintenance	バックアップ、アーカイブおよび復元用データベース スクリプトを格納

## ライセンス エラーの問題のトラブルシューティング

**問題** ライセンスをインストールしようとしているのですが、「Sorry. Cannot enter the license at this time.」というエラーが出ます。なぜでしょうか。

**解決策** 製品のインストール時に入力したホスト名が 32 文字を超えています。**net** コマンドを使用して、システムのホスト名を 32 文字以下に変更してください。**net** コマンドについては、『Cisco Unified MeetingPlace Express インストールアップグレードガイド Release 1.2』を参照してください。

**問題** Cisco Unified CallManager Release 5.x を使用していますが、Cisco Unified MeetingPlace Express の Cisco Unified IP Phone サービスにアクセスしようとすると、正しいユーザ名と PIN を使用しても、必ずログインに失敗します。電話の画面には、認証失敗のメッセージが表示されます。なぜでしょうか。

**解決策** これは既知のバグです。回避策として、Cisco Unified CallManager の管理領域にアクセスし、Cisco Unified MeetingPlace Express サービスに移動して、変更をしないまま **[登録の更新]** をクリックします。



(注) この問題は、Cisco Unified CallManager Release 4.x 以前では発生しません。

## 過剰な数の電子メールがランダムに送信される問題のトラブルシューティング

**問題** Cisco Unified MeetingPlace Express システムが過剰な数の電子メールを送信することにより、使用中の電子メールおよび音声メール システムがクラッシュします。どうしたら止めることができますか。

**解決策** その電子メールは cron スクリプトによって生成されています。cron デーモンは、crontab ファイルに設定されている電子メールアドレスに対して、すべてのジョブの電子メール レポートを送信します。この電子メールを無効にするには、crontab ファイルを手動で編集して、MAILTO の行を MAILTO="" に変更します。

## Web ページが表示されない問題のトラブルシューティング

**問題** Cisco Unified MeetingPlace Express システムのインストール後、ホームページが表示されません。

**解決策** インストール時にホスト名の値を正しく設定したかどうか確認してください。正しくない情報を入力した場合は、**net** コマンドを使用して値を変更します。**net** コマンドの使用の詳細については、『Cisco Unified MeetingPlace Express インストールアップグレードガイド Release 1.2』を参照してください。